
出会い

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

出会い

【Zコード】

Z8588D

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

ジン×ベルモットです。二十年前のお話。シャロンに連れられて初めて組織に来たクリス。そこで会ったのは、黒澤陣と名乗る銀髪の少年だった……。この小説はシャロンとクリスを別人と仮定します。

「二十年くらい前の話だ。

母に連れられて私は組織の本部へと来た。

母は男と話している。

「お母さん」

私は母の後ろに隠れた。

「ん？？…シャロン、君の娘かい？？」

男は私を見て言った。

「ええ…クリスって言つの…私に似てるでしょ？？」

「ああ…ゆつくりして行くといいよ」

男は母に別れを告げた。

「クリス…ここにいるのよ」

母は私を部屋に置いて何処かへ行つた。

(つまらない…)

私はそう思つと部屋から出た。

(みーんな黒い服を着てるのね)

私はそう思ひながら歩いていた。

「おい…ガキ」

後ろから声をかけられて振り返つた。

そこには私と同じくらいの歳の少年がいた。

「貴方、誰？？」

私は綺麗な銀髪の少年に聞いた。

「俺は陣…黒澤陣だ」

「私はクリス・ヴィンヤードよ

私たちちは仲良くなつた。

「陣は組織の人間なの？？」

「そうだ…お前は違うよつだな

陣は私の顔を見た。

「私はお母さんが組織の人間なの」

「そうなのか」

それから色々話した。

「そろそろ戻らなくていいのか??」

陣の言葉で時計を見た。

「うん…陣…私たち…また会えるかな??」

「さあな…会えるかもな」

陣はそう言つと部屋まで送つてくれた。

「クリス!!!!」

母が駆け寄つて來た。

「心配したのよ…勝手にいなくなつちゃつて」

母は陣に目を向けた。

「貴方が連れて來てくれたのね…ありがとうございます」

「いいえ…失礼します」

陣は私の方を向いた。

「じゃあな…クリス」

陣に初めて名前を呼ばれた時だった。

それから十年くらいたつて私は組織の構成員になり、暗号名ベルモットと呼ばれるようになつた。

「お前がベルモットか??」

銀髪の男が言つ。

「ええ…貴方はジンね」

私が言つうとジンは驚いたように

「なんで知つてんだ??」

と、言つた。

「私たち会うの初めてじゃないもの」

私は笑つて続けた。

「私の事…忘れたわけじゃないわよね??…陣」

「…クリスか？？」

私はうなづいた。

「ええ…また会えたわね」

この出会いは運命だったのかもしれない…

恋に落ちる事も…

きっと運命だった。

好きよ…陣^{ジン}…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8588d/>

出会い

2010年10月9日22時54分発行